

主要産地における令和5年産水稲の生育状況等について 第8報 (令和5年7月13日取り組み)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部(令和5年7月13日)

道府県	区分	生育状況等		技術・防除・気象等関係公表資料(自産体、気象等公表資料の抜粋)	(参考)	
		生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)	生育状況等			
		平年、指標等に対する遅速等				
北海道	(生育)	<p>【生育状況(7月1日現在)】</p> <p>(全道) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(北海道農政部 7月6日付)</p> <p>(空知) 生育はやや早く進んでいる。(空知総合振興局 7月6日付)</p> <p>(石狩) 高温多湿により、分けつが発生が軽微となり生育が進んだ。(石狩振興局 7月6日付)</p> <p>(根室) 遅速は早3日。(根室総合振興局 7月6日付)</p> <p>(釧路) 高温、多湿で生育が進んでいる。生育はやや早い。(釧路総合振興局 7月6日付)</p> <p>(帯広) 生育は平年並に進んでいる。(帯広総合振興局 7月6日付)</p> <p>(日高) 生育は平年並に推移している。(日高振興局 7月6日付)</p> <p>(渡島) 生育は平年並に推移している。(渡島総合振興局 7月6日付)</p> <p>(樺山) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(樺山振興局 7月6日付)</p> <p>(上川) 生育は平年並である。(上川総合振興局 7月6日付)</p> <p>(留萌) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(留萌振興局 7月6日付)</p> <p>(オホーツク) 好天により、生育は平年よりやや早く進んでいる。(オホーツク総合振興局 7月6日付)</p>		<p>【全国】春からエルニーニョ現象が続いているとみられる。今後、秋にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い(90%)。(気象庁 7月10日付)</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】北海道地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p>		<p>令和5年度の品種構成の概況</p> <p>・「なつげし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。(農林水産省 令和5年3月15日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
青森	(生育)	<p>【7月10日現在の生育】</p> <p>・「つがるロケット」は草丈が67.2cmで平年より7.9cm長く、株当たりの茎数は36.6本で6.0本多く、葉数は10.7葉で0.2葉多かった。</p> <p>・「青炎の霹靂」は草丈が72.3cmで6.2cm長く、株当たりの茎数は28.6本で0.8本多く、葉数は9.5葉で平年並であった。</p> <p>・「ふとしくら」は草丈が72.1cmで6.7cm長く、株当たりの茎数は22.6本で1.2本多く、葉数は10.3葉で0.2葉多かった。</p> <p>・「はれわたたり」は草丈が71.1cm、株当たりの茎数は31.5本、葉数は9.7葉であった。</p> <p>(地独) 青森県産産業技術センター農林総合研究所 7月10日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月はげしやうら、ニカメイガ、斑点米カメムシ、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>		<p>・「まっしぐら」及び「つがるマリン」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。(農林水産省 7月12日付)</p>
岩手	(生育)	<p>【7月10日現在】(県内農業改良普及センター 一斉調査)</p> <p>・生育診断予断書における7月10日現在の生育(前平均)は、草丈64.0cm(平年差+2.5cm)、茎数は515本/m²(平年比97%)、葉数は10.2葉で平年より1.0多い。</p> <p>(岩手県農業普及技術課 7月11日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月はげしやうら、ニカメイガ、斑点米カメムシ、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>		<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。前のササガキ品種である「霞のしずく」が、耐水性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	(生育)	<p>【7月10日現在】</p> <p>・古川農業試験場の「ひとめぼれ」では、草丈は68.2cm(平年比113%)、1m²当たりの茎数は585本(平年比114%)、葉数は10.9枚(平年差+0.6枚)となっており、平年と比較して生育はやや進んでいる。</p> <p>・幼穂長は2.0cm(平年差+0.3cm)となっており、7月7日に幼穂形成期に入るとみられる。(宮城県 7月11日付)</p> <p>【7月10日調査】(庄) アサダスの気温を用いた予測では、豊平均の田穂時期(5月12日)における「ひとめぼれ」の出穂期は8月1日頃。(宮城県農業改良普及センター 7月11日付)</p> <p>(仙) 「ひとめぼれ」と「ササニキ」は幼穂形成期に入った。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月11日付)</p> <p>(美) 出穂盛期は7月31日頃と予測される。(平年8月2日)(宮城県農業改良普及センター 7月11日付)</p> <p>(栗) 「ひとめぼれ」は、草丈と葉数は平年並、葉色は淡くなっている。茎数は、平年と比べ少ないものの、移植栽培の生育量の目安(7月10日頃(穂形成期)470～530本/m²)の範囲内となっている。「だて正実」、「金のいぶき」、「新えみのり」も幼穂形成期に入っている。(宮城県農業改良普及センター 7月12日付)</p> <p>(石) 幼穂形成期は7月4～9日頃、平年より草丈は長く、茎数は少ない。出穂は平年より3日早まる見込み。(宮城県石巻農業改良普及センター 7月11日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月はげしやうら、ニカメイガ、斑点米カメムシ、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>		<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田	(生育)	<p>(北秋田) 7月5日現在の生育(「あきたこまち」：9地点平均)は、草丈は55.1cm(平年比104%)、茎数は486本/m²(94%)、葉数は10.4葉(平年差+0.2葉)、日照時間が平年より少なく、気温日較差の小さい日が続いたため、茎数の増加率が低くつたとみられる。(7月12日付)</p> <p>(雄) 7月5日現在の定植調査では、草丈はやや長めで葉色は平年並に推移している。茎数は播種間隔がみられるが、移植の遅い場所を除いて、やや多いと見られる。(7月12日付)</p> <p>(仙) 7月5日の生育調査では茎数は483本/m²、草丈はやや長く、葉色は平年並、葉数から見た生育は3日程度早い。生育は平年並と見られる。生育は平年並と見られる。生育は平年並と見られる。(7月12日付)</p> <p>(山) 7月5日の定植調査の結果より、草丈が長く、茎数がやや少なくなっている。また、葉数がやや多く、葉色は平年より濃くなっている。6月下旬以降の降雨、日気温較差が小さい日が続いたことが影響したと思われる。(秋田県農林政策課)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月はげしやうら、ニカメイガ、斑点米カメムシ、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>		<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	(生育)	<p>(北村山) (7月10日現在)【全般的な傾向】</p> <p>・(平年比) 草丈：概ね並、茎数：やや少ない～並、葉数：並、葉色：やや濃い。(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月11日付)</p> <p>(鶴岡田川) (7月10日現在)</p> <p>・茎数は多い～やや多い、葉数は並、葉色はやや濃い～やや薄い、特に茎数は依然として圃場間差が見られる。出穂期は平年よりやや早まる見込み。(山形県庄内総合支庁農業技術普及課 7月12日付)</p> <p>(西村山)</p> <p>・出穂は平年並み～やや早い予想。(西村山農業技術普及課 7月11日付)</p> <p>(西置賜)</p> <p>・7月10日現在の生育診断書の生育は、草丈は平年並～長く、茎数は品種による差が大きく、葉数は平年並～やや少く、葉色は並～やや濃い状況。今後気温が高くなる予想となっていることから、出穂期は平年より早まる予想。(西置賜農業技術普及課 7月11日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月はげしやうら、ニカメイガ、斑点米カメムシ、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>		<p>・「はえぬき」及び「つやね」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の向上により、新米種への転換が増加している。なお、カリフォルニア品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>
福島	(生育)	<p>(農業総合センターの作柄解析試験における7月4日現在の生育概況)</p> <p>・全ての調査場所で3品種(「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「天のつぶ」)ともに、草丈が平年より長く、茎数が平年並かやや多く、主稈葉数が平年より0.1～0.4枚多く、葉色が平年並。</p> <p>(福島県農林水産部農業振興課 7月10日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月はげしやうら、ニカメイガ、斑点米カメムシ、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>		<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の向上により、新米種への転換が増加している。なお、カリフォルニア品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>
茨城	(生育)	<p>【7月10日現在、水戸市】対平年遅速</p> <p>(5月1日移植)</p> <p>・「あきたこまち」3日早い、「ふくまるS」平年並、「コシヒカリ」平年並。</p> <p>(5月10日移植) 「コシヒカリ」平年並。</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月11日付)</p> <p>【7月5日現在、龍ヶ崎市】対平年遅速</p> <p>(4月27日移植)</p> <p>・「あきたこまち」1日遅い、「ふくまるS」3日早い、「コシヒカリ」2日早い。</p> <p>(5月6日移植) 「コシヒカリ」2日遅い</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月6日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、平年並か多い見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>向こう1か月はニカメイガ、縞葉枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>		<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。なお、カリフォルニア品種「とちぎの星」が作付け移行が進んでいる。</p>
栃木	(生育)	<p>【生育概況】(7月6日調査)</p> <p>・草丈は前田調査より差は少なくなったが全般的に、前年より長い傾向。</p> <p>・草丈が70cm以上の茎数はバラツキが大きい。前年並～やや多い、葉色は前年並み。</p> <p>・早稲とちぎの茎数はやや少ない。葉色は前年並み。</p> <p>・幼穂長については各地でバラツキがあり、走りが見られる。幼穂長から推定した出穂は3～4日程度前年より進んでいる。</p> <p>【コシヒカリ】前年比 草丈102% 茎数104% 葉色±0.0</p> <p>【とちぎの星】前年比 草丈102% 茎数93% 葉色-0.1</p> <p>【普通稲えとちぎの星】6月稲 草丈103% 茎数103% 葉色+0.4 葉色-0.5</p> <p>6月稲 草丈102% 茎数73% 葉色+0.3 葉色+0.8</p> <p>(栃木県農政総務課技術課 7月6日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、平年並か多い見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>向こう1か月はニカメイガ、縞葉枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>		<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、カリフォルニア品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>

干 葉	<p>(生育状況等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月22日頃(平年より1日早い)、「龍舌」は6月22日頃(平年並)に幼穂形成期を過ぎている。 また、5月1日に移植した「コシヒカリ」は6月28日頃(平年より1日遅い)から幼穂形成期となる。 <p>(千葉県 6月28日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、平年並か多い見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>向こう1か月日点米カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月12日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ふさごがね」及び「ふさご」ともを中心とする品種構成となっている。令和2年産から新品種「龍舌」の本格栽培が開始
新 潟	<p>【7月10日現在】 (県内全域の生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」では指標値(生育のめやす)に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進み及び葉色は「並」の生育状況が、地域で見られる。 「新之助」では指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数及び葉数の進み、葉色は「並」の生育状況だが、地域差が見られる。 「こいしぶき」では指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」、葉色は「淡い」状況。 <p>(新潟県農水産部 7月11日付)</p> <p>(村 上) (普及センター調査済)</p> <ul style="list-style-type: none"> 草丈:指標値100%(やや遅)、茎数:97%(並)、葉数:指標値+0.3葉(並)。(村上農業普及指導センター 7月12日付) (新 潟) 「コシヒカリ」は指標値に比べ草丈「やや遅」、茎数「やや多」、葉数「やや少」、葉色「やや遅」。(新潟県農業普及指導センター 7月10日付) (長 岡) (「コシヒカリ」生育調査済の生育) 草丈:指標値112%=長い、茎数:指標値108%=やや多い、葉数:指標値+0.5葉=やや早い。(長岡県農業普及指導センター 7月10日付) (赤 松) 調査結果では、草丈が長く、葉色がやや遅いため、倒伏の可能性が懸念される。(魚沼農業普及指導センター 7月10日付) (南魚沼) (管内全体) 草丈:やや短い、茎数:並、葉数:並、葉色:やや遅い(ほ場間差あり)。(南魚沼農業普及指導センター 7月11日付) (十日町) (「コシヒカリ」生育調査済の生育) 草丈「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや遅い」だが、ほ場間差が大きい。(十日町農業普及指導センター他 7月11日付) (上 越) (県内生育指導済) 「コシヒカリ」:草丈:やや長い、茎数:並、葉数:並、葉色:並。「こいしぶき」:草丈:やや長い、茎数:並、葉数:並、葉色:遅い。(上越農業普及指導センター 7月10日付) (糸魚川) (調査ほ場の平均) 草丈はやや短、茎数は並、葉色は並となっている。(糸魚川農業普及指導センター 7月10日付) (佐 渡) 「コシヒカリ」生育状況(調査9地点平均、移植日平均5月9日) 草丈(長)葉数(やや多)葉数(並)葉色(並)。(佐渡農業普及指導センター 7月10日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「こいしぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきんぶき」、「つきあかり」及び「みずがみ」の導入が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」(陸田)の作付拡大を推奨している。
富 山	<p>【7月11日現在】(生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」平年と比べ、草丈、葉数、葉色は並、茎数はやや少なくなっている。幼穂形成期は、平年と比べて2日早い7月9日と見込まれる。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より2日早い7月30日頃と見込まれる。 「てんたかく」5月3日移植の「てんたかく」の出穂期は、近年より1日早い7月15日頃と見込まれる。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は近年より2日早い8月19日頃と見込まれる。 「てんこもり」平年と比べ、草丈、茎数、葉色は並、葉数は並、葉色は並となっている。幼穂形成期は、平年並の7月12日頃と見込まれる。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年並の8月3日頃と見込まれる。 「富富富」 近年と比べ、草丈、茎数、葉色は並、葉数はやや遅れている。幼穂形成期は、近年と比べて1日早い7月12日頃と見込まれる。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年と比べて1日早い8月3日頃と見込まれる。 <p>(富山県 7月11日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温多湿でも品質が安定している「てんたかく」及び「てんこもり」の導入が増加傾向にある。
石 川	<p>【6月9日現在】</p> <p>(草丈)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」:平年比85～134% (県平均107%、加賀:104%、能登:110%) 平年並～長く、前年に比べてやや長い。 「ゆめみづほ」:平年比80～121% (県平均108%、加賀:105%、能登:112%) 平年と比べてやや長い～長く、前年に比べて長い。 「ひやくまん数」:近年比89%～120% (県平均108%、加賀:112%、能登:103%) 近年並～長く、前年に比べてやや長い～長い。 <p>(茎数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」:平年比76～159% (県平均104%、加賀:105%、能登101%) 平年及び前年並。 「ゆめみづほ」:平年比84～166% (県平均111%、加賀:104%、能登128%) 平年及び前年に比べて並～多い。 「ひやくまん数」:近年比72～189% (県平均114%、加賀:105%、能登129%) 近年及び前年に比べて並～多い。 <p>(葉齢)</p> <ul style="list-style-type: none"> 葉齢差は、「コシヒカリ」は平年及び前年並、「ゆめみづほ」も平年及び前年並、「ひやくまん数」は近年及び前年と比べ2日程遅い。 <p>(石川県農林総合研究センター農業試験場 6月9日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年、高品質栽培に優れた「ひやくまん数」が導入傾向にある。
福 井	<p>【7月5日調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業試験場の5月2日に移植した「ハネネゼン」の幼穂形成期は、平年より2日早い8月25日となった。幼穂形成期は早い見込み。平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より4～9日程早まる見込み。移植が早いところは、未達の後半には出穂期となる見込み。 5月上旬に移植した「いちほまれ」が幼穂形成期に入っている。 雨の日が多かったことから、一部でいもち病が発生している。 <p>(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ハネネゼン」を中心とする品種構成である。なお、新品種である「いちほまれ」が導入傾向にある。
長 野	<p>【標高348m浜原市八重森の農業試験場における水稲生育状況 移植後40日(あきたこまち、コシヒカリ、風さやか)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主幹葉数はほぼ平年並。草丈は「あきたこまち」は平年並、「コシヒカリ」「風さやか」は平年より短い。茎数は平年と比べ、「あきたこまち」は多く、「コシヒカリ」は少なく、「風さやか」はやや少ないが平年並に近づきつつある。 <p>(長野県農業試験場 7月5日付)</p> <p>【標高1017m原村試験地における水稲生育状況 移植後40日(きりりん、ゆめしなの、あきたこまち)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主幹葉数、茎数はいずれ品種も平年より進んでいる。草丈は平年並～やや長い。全体的に生育は前進傾向であるが、6月5日頃やや低温傾向であり、移植後30日時点と比べ、生育の進みはやや遅くなったと考えられる。 <p>(長野県農業試験場 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、平年並か多い見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成である。近年、高品質栽培に優れた「あきたこまち」の導入を推進している。
滋 賀	<p>【水稲作況調査(6月20日時点)による】</p> <ul style="list-style-type: none"> 草丈は「みずかがみ」「コシヒカリ」ともに平年並であった。茎数は「みずかがみ」「コシヒカリ」ともに平年より少なかった。葉色は「みずかがみ」が平年並、「コシヒカリ」はやや遅かった。 葉数は「みずかがみ」「コシヒカリ」ともに平年並であった。 6月26日現在、「みずかがみ」「コシヒカリ」は幼穂形成期(幼穂1.0mm)に達していないが平年並の時期となる見込み。 <p>(滋賀県農業技術振興センター 6月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」、「キヌカカリ」、「みずがみ」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。近年、高品質栽培に優れた「みずがみ」の作付が推進されている。
兵 庫	<p>【6月28日時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> (県 北) 「コシヒカリ」の草丈は平年並、茎数はかなり多く、葉齢の進捗はやや早い。遅延では、草丈は平年並、茎数はかなり多く、葉齢の進捗はやや早い。 (県北以外) 葉齢の進捗は平年並～やや早く、草丈は平年並。 <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌカカリ」及び「山田晴」を中心とする品種構成である。「きぬすずめ」の作付拡大を推進している。
岡 山	<ul style="list-style-type: none"> 稲早生種の生育は概ね平年並である。 <p>(岡山県 6月28日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月12日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「アケボノ」、「きぬすずめ」、「コシヒカリ」あきたこまち及び「ヒノヒカリ」及び「きぬすずめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬすずめ」が増加傾向となっている。
広 島	<p>【7月10日調査】広島県総合技術研究所農業技術センター一園圃(東広島市八本松町)</p> <p>()内は平年値</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」(密植) 草丈:71.7(71.4) cm、茎数:598(491)本/m²、葉色(SPAD値)42.0(37.1)、葉齢10.3(10.9) 「あきまん」(密植) 草丈:62.5(61.8) cm、茎数:622(533)本/m²、葉色(SPAD値)40.7(36.8)、葉齢11.4(11.3) 「ヒノヒカリ」(密植) 草丈:62.6(61.4) cm、茎数:467(509)本/m²、葉色(SPAD値)40.1(36.3)、葉齢9.9(10.8) 「穂の手形」(普通植) 草丈:65.6cm、茎数:682本/m²、葉色(SPAD値)39.3、葉齢11.7 「あきさかり」(普通植) 草丈:59.4cm、茎数:497本/m²、葉色(SPAD値)42.6、葉齢11.3 <p>(広島県総合技術研究所農業技術センター 7月12日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月12日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。

愛 媛	<p>(生育状況等)</p> <p>【2023年度「ひめの雫」の生育状況（7月10日現在）】</p> <p>（5月22日移植 7月10日調査） ・草丈(cm) 61.4、葉数(本/㎡) 362、一株あたり葉数(本/株) 23.9、葉色(SPAD値) 32.8</p> <p>（6月1日移植 7月10日調査） ・草丈(cm) 54.3、葉数(本/㎡) 323、一株あたり葉数(本/株) 21.3、葉色(SPAD値) 37.5</p> <p>（6月14日移植 7月7日調査） ・草丈(cm) 58.4、葉数(本/㎡) 241、一株あたり葉数(本/株) 15.9、葉色(SPAD値) 40.3</p> <p>(愛媛県農林水産研究所 7月13日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月7月23日、斑点米カメムシ、結実枯病、いもち病、ごま葉枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月12日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。</p>
高 知	<p>【6月月報】</p> <p>(早期稲) 穂孕期～出穂期、時期：並、生育：並 ・6月に入って雨の日が多いが、草丈はほぼ平年並、分けつ数は平年並～やや多く、出穂時期は穂早生品種、「コシヒカリ」ともほぼ平年並で推移している。</p> <p>(普通期稲) 分けつ期、時期：並、生育：並 ・田植えはほぼ終了し、順調に生育しているが、一部で移植後もいもちの影響を受けている様が見られる。</p> <p>(高知県病害虫防除所 7月4日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月7月23日、斑点米カメムシ、結実枯病、いもち病、ごま葉枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月12日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>
福 岡	<p>【6月15日現在】</p> <p>【早期水稲】(夢つくし、コシヒカリ) ・田植え後、多雨の影響により、草丈は平年よりやや高く、葉数は少ない、ウンカ類の発生は確認されていない。 4月下旬植えの出穂期は7月4半旬頃で、平年よりやや遅くなる見込み。</p> <p>【普通期水稲】(夢つくし、元気づくし、ヒノヒカリなど) ・苗の生育は概ね順調、育苗期の不安定な天候により、一部で軟弱苗や病気の発生が見られる。 ・現在、収穫後のほ場でも田植えが始まり、平地の「夢つくし」は6月上中旬、「元気づくし」は6月中下旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が最盛期となる見込み。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 6月22日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気づくし」を中心とする品種構成であるが、「元気づくし」が増加傾向となっている。県では「実りつくし」の拡大を推奨している。</p>
熊 本	<p>【6月15日現在】</p> <p>【早期水稲】(夢つくし、元気づくし、ヒノヒカリなど) ・苗の生育は概ね順調、育苗期の不安定な天候により、一部で軟弱苗や病気の発生が見られる。 ・現在、収穫後のほ場でも田植えが始まり、平地の「夢つくし」は6月上中旬、「元気づくし」は6月中下旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が最盛期となる見込み。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 6月22日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気づくし」を中心とする品種構成である。「元気づくし」はリーディング品種として増強傾向が年々拡大している。</p>
宮 崎	<p>【作物の生育状況（6月中旬）】</p> <p>・早期水稲は稲ばらみ期、普通期水稲は移植前後。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月30日)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>九州南部地方は7月19日頃からかなりの高温。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みそ38」への作付誘導が進められている。</p>
鹿児島	<p>【6月15日現在】</p> <p>【早期水稲】(夢つくし、元気づくし、ヒノヒカリなど) ・苗の生育は概ね順調、育苗期の不安定な天候により、一部で軟弱苗や病気の発生が見られる。 ・現在、収穫後のほ場でも田植えが始まり、平地の「夢つくし」は6月上中旬、「元気づくし」は6月中下旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が最盛期となる見込み。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 6月22日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月15日～8月14日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>九州南部地方は7月19日頃からかなりの高温。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。普通栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：県及び地方自治体、出水機関等がホームページで公表している資料を本調査情報欄で取り纏め。
注2：生育状況等（自動採体の検査資料の作物）については令和6年7月13日 15時時点での取り纏め。
注3：葉数調査は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道農政部 7月6日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月6日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月6日)、
農作物生育状況調査の概要 7月1日現在(北海道留萌振興局 7月6日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月6日)、
水稲作況調査(7月10日現在の生育状況)(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 7月10日)、
令和5年産岩手県内の水稲の生育概況(7月10日現在速報)(岩手県 7月11日)、
令和5年産水稲の生育状況について(7月10日現在)(宮城県みやぎ米推進課生産販売班 7月11日)、
令和5年稲作情報第5号(宮城県亙理農業改良普及センター 7月11日)、
仙台北稲作情報2023(第5号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月11日)
令和5年産美里地区の稲作情報第6号(宮城県美里農業改良普及センター 7月11日)、
栗原の稲作通信令和5年第6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月12日)、
稲作情報(Vol.6)(宮城県石巻農業改良普及センター 7月11日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」)http://www.e-komachi.jp/ 7月13日閲覧)、
稲作だより第10号(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月11日)、
おいしい米づくり情報第10号(山形県庄内総合支庁農業技術普及課 7月12日)、
稲作だより第9号(西村山農業技術普及課 7月10日)、
西おきたま米づくり情報No.9(西置賜農業技術普及課 7月11日)、
主要な農作物の生育情報令和5年度第4号(福島県農林水産部農業振興課 7月10日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月11日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月6日)、
水稲生育診断速報No.4(栃木県農政経営技術課 7月6日)、
水稲の生育と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 6月28日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第5号)(新潟県農林水産部 7月11日)、
岩船米づくり情報No.5(村上農業普及指導センター 7月12日)、
稲作速報No.5(新潟農業普及指導センター 7月10日)、
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 6月29日)、
コンヒカリ生育情報第5号(魚沼農業普及指導センター 7月10日)、
稲作情報No.5(長岡農業普及指導センター 7月10日)、
南魚沼産コンヒカリ生育速報No.5(7月10日調査)(南魚沼農業普及指導センター 7月11日)、
コンヒカリ・こしいぶき生育速報No.5(6月20日)(上越農業普及指導センター 7月10日)、
令和5年度糸魚川売れる米づくりコンヒカリ生育情報No.5(糸魚川農業普及指導センター 7月10日)、
令和5年度稲作生育速報No.5(佐渡農業普及指導センター 7月10日)、
十日町地域稲作生育速報(令和5年7月11日)(十日町農業普及指導センターほか 7月11日)、
TACS情報第6号(富山県 7月11日)、
令和5年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-3号)(石川県農林総合研究センター 6月9日)、
稲作情報No.10(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月7日)、
農業試験場水稲試験圃の生育状況(令和5年)(長野県農業試験場 7月5日)、
水稲高標高試験圃の生育状況(令和5年)(長野県農業試験場 7月5日)、
令和5年度水稲生育診断情報No.2(滋賀県農業技術振興センター 6月26日)、
令和5年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県農林水産部 7月5日)、
令和5年度病害虫発生予報第4号(岡山県 6月28日)、
水稲生育状況(令和5年7月10日現在)(広島県立総合技術研究所農業技術センター 7月12日)、
2023年度「ひめの魂」の生育状況(7月10日現在)(愛媛県農林水産研究所 7月13日)、
病害虫発生予察情報について 令和5年度病害虫発生予察6月月報(高知県病害虫防除所 7月4日)、
福岡県的主要農作物の生産状況(令和5年6月15日現在)(福岡県農林業総合試験場 6月22日)、
令和5年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月30日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月13日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月13日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月13日気象庁)
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月13日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月13日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月13日広島地方気象台・
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月13日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月13日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月13日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(6月20日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(6月20日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(6月20日気象庁)
北陸地方こう3か月の天候の見通し(6月20日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(6月20日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(6月20日広島地方気象台・
四国地方こう3か月の天候の見通し(6月20日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(6月20日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(6月20日鹿児島地方気象台)、

早期天候情報(7月13日14時30分 気象庁)、
エルニーニョ監視速報(No.370)について(気象庁 7月10日)、

「令和5年度病害虫発生予報第4号」(農林水産省 7月12日)、
令和5年産水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月15日)